

# トイレの と



## Contents

JAPAN TOILET ASSOCIATION

- |         |   |         |  |
|---------|---|---------|--|
| 1 - 7   | 特別企画 関東大震災から100年                          | 21 - 22 | ノーマライゼーション研究会 セミナー報告   |
| 8 - 10  | 新連載 日本トイレ協会40周年にあたり<br>「温故知新」～これまでの協会と今後～ | 23 - 24 | 第39回全国トイレシンポジウム開催のご案内<br>2023年度 JTA トイレ賞 応募のお願い<br>第9回トイレ産業展のご案内 |
| 11 - 15 | 第2回子どもとトイレの勉強会                            | 25      | 私の推薦トイレ  |
| 16      | 2023年度定時総会報告                              | 26      | お知らせ   |
| 17 - 18 | 新入法人会員のご紹介                                |         |  |
| 19 - 20 | 新入個人会員のご紹介                                |         |  |

## 関東大震災におけるトイレ・屎尿処理の状況

### 1 はじめに

1923(大正12)年9月1日午前11時58分に発生した関東大震災は首都圏に未曾有の被害をもたらした。死亡・行方不明者10万人以上、避難者数100万人以上であった。お昼時であったこともあり、各所で発生した火災による焼死者が約9割を占めていた。関東大震災の概要に関しては多く他書で述べられているので、ここでは詳細は避けることにする。

今日、震災時のトイレ問題が取り上げられ、問題視されるようになったのは1995(平成7)年に発生した阪神・淡路大震災が切っ掛けであった。以降、災害トイレの重要性が認識され、研究が深められている。ここでは、阪神・淡路大震災に先立つ約70年前、近代国家として歩みはじめた日本が最初に直面した大災害である関東大震災のトイレ事情を見ていきたい。

### 2 大正時代のトイレの状況

関東大震災時のトイレ事情を考える時、そのイメージを、江戸・明治時代のような屎尿リサイクル社会における汲取便所のイメージや、まして現代のような水洗トイレのイメージで見る事はできない。大正期のトイレ・屎尿処理には激変がおきていた。鎌倉時代以降長きにわたり、有価物として貴重に扱われていた屎尿は大正期には一変して厄介な廃棄物へと変化した。この変化は徐々に進行したのではなく、おそらく震災直前の1914(大正3)年ころから1921(大正10)年までの間に急激に進行したと考えられる(注1)。有価物としての数百年の屎尿の歴史からすれば、まさに一夜にしてその立場が逆転したといえる。都心部では、汲み取りの停滞が起こりはじめ、1918(大正7)年頃には困り果てた市民は、便壺の底に穴をあけて屎尿を地下に流したり、夜になってこっそり下水(注2)に捨て、市や区役所には毎日のように苦情がくるようになった。東京市(注3)が直面する屎尿処分問題に関して、1922(大正11)年7月19日に三枝栄太郎市議(注4)から市会本会議で質問書が提出された。この質問書に対して、8月14日に後藤新平市長の名で答弁書が送られた。質問項目は16にわたるもので、震災直前の東京市の屎尿処理の状況を伝える貴重な史料といえる。この質問書は、現代の私達が、大正時代のトイレ・屎尿処理をイメージする上で抱くであろう疑問に答える内容で、かつ明快なQ&A形式で述べられているため、書式を保持しつつ、その概略を記す。



絵葉書(大東京シン災害実況)  
火中の内務省及其附近 筆者蔵

#### 質問1

市の人口と屎尿の総排泄量はどの位か？

#### 回答1

人口は約217万人余で、一人一日5合(注5)の排泄とすれば1日11000石(注6)と推定される。

質問2

会社、その他の団体（注7）で汲取りに従事するものがあれば、その名称及び汲取担当区域は？

回答2

会社組織で汲取っている業者は京橋区桶町の東京生肥株式会社（下谷、浅草区内汲取り）下谷区桜木町の桜木自動車株式会社（下谷区内汲取り）、下谷区龍泉寺町の常総肥料株式会社（下谷、浅草区内汲取り）牛込区白銀町の相互肥料株式会社（牛込区内汲取り）の4社で、このほか法人組織ではないが団体としては神田区内の東京屎尿肥料組合に汲取人など600余人が加入している。

質問3

個人営業として汲取に従事し比較的広い地域を担当している者あればその地域と名称は？

回答3

個人営業者の数は非常に多く、単独で業務に従事するか汲取人5、6名を雇っている程度で、広い地域を担当している者はない。氏名、作業能力など正確にはつかめない。

質問4

市が現在施行している汲取直営区域は？

回答4

昨年10月（注8）から牛込、小石川、本郷3区を直営の汲取りとし、本年4月から下谷、浅草両区に拡張した。

質問5

市所有の汲取設備は？

回答5

市は2000石を限度として汲取処分をする目標で設備費として47万6千円余の追加予算を計上し工事に着手、現在は大部分が完成している。即ち①埼玉県入間郡農会に屎尿を輸送するため東上線、武蔵野線各駅（注9）に貯留の設備②浅草区内三好町外2カ所に三河島污水処分場に送る下水管の屎尿投棄所、③屎尿搬出場における屎尿溜は目下建設工事中など。

質問6

汲取りに関し市が直接、間接に使役する従業員の数は？

回答6

牛込、小石川、本郷、下谷、浅草の5区役所及び市衛生課の総計で295人。

質問7

屎尿公認船の積場所である各河岸の所在と関係農村名は？

回答7

全市内の各河岸に設けてある公認の船積場所は赤坂、麴町、四谷、下谷を除いた旧11区で総計217カ所、関係農村は南多摩郡は稲城村付近、北多摩郡は調布村、狛江村付近のみでその他は府下各郡全村及び埼玉県77カ村、千葉県25カ村、神奈川11カ村である。

質問8

汲取料金の種別は？

回答8

市の直営は1荷（注10）10銭（注11）の料金であるが、民間の業者は汲取った荷数で徴収するものは少なく、多くは月極めで家族数に応じて協定しているようである。

## 質問9

下掃除代など昔の習慣で農家からいまだに代金を取っている地主ありや否や？

## 回答9

今日の状態は市内一般が汲取料金を支払っているようで、あるいは代金を徴収している地主もあるかもしれないが耳にした事実はない。

## 質問10

無料で汲取作業をしている部分はないか？

## 回答10

無料汲取はまだまれにあるようだが、極めて少数の自家用農民で、多年の得意であった関係から好意的に請求しないのではないかと考えられる。

## 質問11

市の取りつつある処分の方法は？

## 回答11

地方農家が本市尿尿を生肥として、需要過剰を理由として引受けを拒絶したり、多額の料金を要求するので今日の状態になったが、本市はまず過剰尿尿を処理し各戸の汲取停滞を緩和しようとして以下の方針を立てた。①三河島污水処分場を利用して尿尿を暗渠に投棄し浄化放流する。②生肥処分としては従来の需要地を離れてなるべく遠隔の地に供給するため鉄道を利用する。③科学的処分を目的として民間で現に硫酸アンモニア工場をもつ会社に払い下げている。

## 質問12

市の将来の方針は？

## 回答12

尿尿の肥料価値は減退したのではなく、一般農家の需要は相当にあり、近い将来は生肥処分を主とし、過剰分のみを化学処分その他で処理する。これらは目下「汚物調査会」で研究調査中なので、結論を得てさらに方針を確立したい。

## 質問13

現在浅草区内に設けてある尿尿投棄所は浅草方面に限るのか、全市に設備する考えなのか、またその処分を大下水に流すとして三河島污水処分場は根本において尿尿を浄化する設備があるのか、あるいは一時的考えなのか？

## 回答13

現在の投棄所は下谷、浅草の汲取処分だけであって、下水道工事の完成している地域で行っている。他の地域では下水道が完成した場合、同様の設備をするか否か目下のところ不明、また三河島污水処分場は浄水にして放流している。さらに本年度の尿尿処分関係費は51万7千円で、1日2000石処理の予定である。

### 3 発災後の動き

発災からの状況を尿尿汲み取りやトイレに関する史料を、時系列に整理しまとめてみた。

#### 9月1日（土）発災当初

震災発生当時は、係員は被災者の救護活動に全力を注いだため、尿尿処理作業は一時中断することになった。山の手地域は下町地域に比べて被害が軽かった事もあり、多くの避難者が訪れた。そのため、尿尿の停滞も著しい状態になった。また、市に隣接する町村の汲み取り作業員も震災に伴う流言飛語におびえ、仕事に就くことができなかった。さらに、橋の焼失・崩落・漂流物等により交通も遮断され汲み取りに来られる人は皆無であった。水道橋自動車車庫においては、出入口を塞ぐ瓦礫を撤去し可能な限り自動車（注12）の搬出を行ったが、火災によって自動車6台を焼失することになった。車庫の重要書類は職員が砂利置場の砂の中に埋めたため、焼失を免れた。火災時には多くの避難者や家財類を自動車で小石川植物園や伝通院方面に運んだ。なお、市が保有していたトイレ・尿尿処理関連の被害状況は表の通りである。

	震災前保有数	被害数	残存数
街頭便所	262	210	52
手車	278	148	130
自動車	30	6	24
運搬用樽	11000	4300	6700
桶	11000	9300	1700
河岸尿尿溜	1か所	資料に記載無く不明	
鉄道貨車	18輛	資料に記載無く不明	
尿尿投棄場	3カ所	資料に記載無く不明	
揚水場	1か所	資料に記載無く不明	
自動車車庫	2カ所	水道橋車庫以外 資料に記載無く不明	
駅ホーム尿尿溜	資料に記載無く不明		

### 9月4日（火）

避難者集合地域に応急の仮便所（注13）を急ぎ建造し、清掃隊を組織し掃除と消毒を行う。また、破壊された街頭便所に関しては、なるべくそのまま使用できるように、灰塵の片づけと清掃をおこなった。

### 9月8日（土）

尿尿の処理の滞りが激しくなり、市は急ぎ排除計画を立てたが、市区の所有していた汲み取り器具の約半数は焼失あるいは紛失していた。そのため震災前に実施していた1日、2000石の汲み取りを行うことは困難であった。しかし、焼け残った器具や鉄道輸送用の器具を集め各区に配布し汲み取りに着手した。計画では、市内の1日の尿尿排泄量を約7500石と想定して、その内2000石は市区直営で無料で汲み取り、他の部分は料金を交付して汲み取りを行うこととした。具体的には、

- ①避難者集合地域には仮便所を設置し、尿尿は無料で回収を行う。
  - ②隣接町村の青年団・在郷軍人会、近県郡の農会等の応援を受けて、1荷につき35銭以内の汲み取り料を支払う。
  - ③警視庁（注14）・府庁（注15）・内務省（注16）と連絡を取り、汲み取り器具の購入及び、汲み取り応援団、汲み取り業者、その他農民等に汲み取りに出動してもらうことを依頼する。
  - ④市直営の尿尿運搬船は9月8日から搬出河岸10カ所に30艘を配置し、一部は浅草尿尿投棄場を整理して下水道に放流する。（注17）
- という内容であった。

### 9月10日（月）

各区長に臨時尿尿汲取に関する通達をだす。市係員が直接各区を巡回し、尿尿汲み取りを監督し励ます。市は自動車10台、馬車60台を借り上げ、各区に配置した。また、各区もみずから馬車や作業員を雇いあげ汲み取りに従事した。

### 9月12日（水）

警視庁より自動車6台を尿尿処理応援として借り受けた。

### 9月14日（金）

内務省より自動車10台を尿尿処理応援として借り受けた。

**9月15日頃（土）**

火災を免れ、焼け残った家屋の多い各区の尿尿問題は15日頃までには、ほぼ緩和した。

**9月22日（土）**

火災により焼失した家屋の多い各区の被災者は、それぞれバラックを造ったため、尿尿が停滞するようになった。そのため、東京生肥株式会社、東京尿尿肥料組合他2名と汲み取り契約を締結し、各区長に到達した。

**9月25日（火）**

1日、約5000石余りの汲み取りが行えるようになった。尿尿汲み取り器具の不足を補うため、四斗樽（注18）を10000本、手車200台、汲み取り桶・天秤棒・柄杓を内務省と警視庁の斡旋で購入し作業の円滑化をはかった。尿尿の鉄道輸送、尿尿投棄場の使用を再開する。

**11月25日（日）**

尿尿の無料の緊急汲取を終了する。

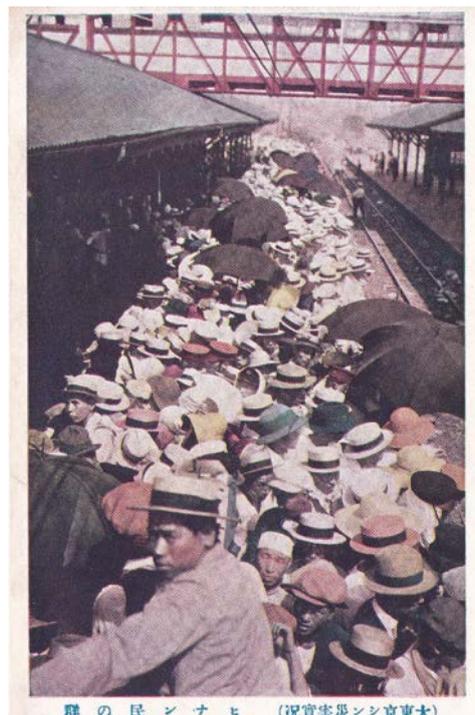
限られた史料ではあるが、時系列に整理してみると、当時の状況がありありと見えてくる。火災を免れた地域では次第に尿尿の滞留が始まり、発災から約1週間後の9月8日に尿尿滞留が激しくなり、その第1波に襲われることになった。しかし、汲み取り用具の約半数を失いながら、急遽対策をたて約1週間後の9月15日には、ほぼ解消に向かっている。驚異的な速さではなかろうか。だが、それも束の間の事、発災から3週間後の9月22日には、尿尿滞留の第2波に襲われた。焼失地域に造られはじめたバラックで尿尿が溢れはじめたのである。しかし、第2波を見通して対策されていたかのように、9月25日には鉄道輸送、尿尿投棄場の再開や汲み取り器具の大量購入が行われている。特筆すべきは、9月4日にはすでに仮設トイレの建設が行われている点ではなかろうか。しかも、消毒を含めた清掃隊を組織して運営するなど全く抜かりがない。火災が鎮火したのは、9月3日の10時頃と言われている。このように発災後の混乱のなかであるにも関わらず、トイレ対策・尿尿処理対策が着実に進められていたことがわかる。

**4 公衆トイレの状況**

当時の公衆トイレは街頭便所と呼ばれていた。1903、1904（明治36、37）年に東京市は15区の街頭便所を買収し直営とした。管理も市営とし、作業員を巡回させて保守・点検を行なわせた。1912（明治45）年から清掃は一層強化され、夏期・年末年始・その他臨時清掃の場合は作業員を増員し、防臭剤の散布などが行われた。しかし、部品や金具の盗難が多く破損がいたる所に生じ、落書きも後を絶たなかったという。

震災前、市では市内262カ所に設置し、上掃除と下掃除を行っていた。上掃除とは室内清掃で、下掃除とは尿尿の汲み取りである。上掃除は市直営で毎日2～4回実施されていた。また下掃除は市内の10区は直営汲み取りで行い、5区は請負汲み取りとして掃除監視職員が監督をしていた。

震災では、210カ所の街頭便所が破壊・焼失し、わずかに山の手方面の52カ所のみが使用可能であった。しかも、清掃用具はほとんど焼失・紛失してしまった。



絵葉書（大東京シン災害実況）ヒナン民の群 筆者蔵

前述の通り、市では9月4日に仮便所の設置を行なったが、焼失地域では便所の不足が深刻であったため、仮便所の増設を進め、市内の約400カ所に設置した。これらの仮便所の多くは四斗樽等に2本の板を渡し周囲を板やアンペラ等(注19)で囲んだものであったという。

市では、震災以前から、街頭便所の数を単に増やすだけでなく、清潔の保持と都市美観のために街頭便所を改築する必要があると考えていた。そのため震災復興事業のひとつとして、1924(大正13)年から5カ年計画をたて、市内の街頭便所の内、210カ所を年に42カ所ずつ改修しようとした。しかし、街頭便所のほとんどは、街路や橋のたもとにあったため、道路や橋の復旧が優先され、改修は計画通りには進展せず、1930(昭和5)年の段階で市内132カ所の改修を終えるにとどまった。

## 5 おわりに

今年、関東大震災後100年ということもあり、漠然と震災時のトイレについて考えていた。そのような中、協会ニュースへの執筆のお話を頂き、これを機に少しまとめておこうと速成書き上げたものである。そのため見落とししている資料も多く、また記述の誤りも恐れるものである。世では、100年を機に関東大震災関連の図書の出版や発表が見られるようになってきた。本稿も関東大震災を語り継ぐ上で一助となれば幸いである。

震災で犠牲になられた方々の御冥福を祈るとともに、人々の動き、場景を想像しながらの執筆であったが、常に脳裏を離れなかった事は、これらの対応を行っていた人々もまた、被災者であった点である。清掃監視官員・船長・機関士・自動車運転手の計275人中、101人が自宅全焼の被害にあっていったという記録がある。直接作業にあたった作業員に関する記録はないが、状況が良かったとは考えにくい。内務省・警視庁も焼失し、多くの混乱・困難に直面する中、職務にあたられた先人達の労苦を想うと、ただただ頭が下がるのみである。

(注1) 大正期における尿尿の有価物から廃棄物の急激な変化は、本文に記したようにトイレ問題を考える上で大変重要なことである。本来であるならば、この変化の過程に関して詳細を記さねばならないところであるが、紙面の関係もあり別の機会としたい。

(注2) 江戸時代には、雨水や汚水を流す大小の水路を下水と称していた。ここでは、近代下水道のことではなくいわゆるドブ等の水路をさすと思われる。

(注3) 1878(明治10)年に東京府の東部の15区を区域として設立された。麹町・神田・日本橋・京橋・芝・麻布・赤坂・牛込・四谷・小石川・本郷・下谷・浅草・本所・深川の15区。ほぼ現在の千代田・中央・港・文京・台東各区の全域と新宿・墨田・江東各区の一部にあたる。なお15区は江戸時代に「墨引」と言われた町奉行管轄の地域にほぼ一致する。

(注4) ここでは『東京都における尿尿処理の変遷』に従い栄太郎と記したが『東京百年史 第4巻 850頁』に市議員三枝米太郎の『東京市の汚物処理に関する所感』という小冊子の一部分が引用されている。おそらく同一人物であり、正しくは米太郎と思われる。

(注5) 容積の単位 1合は約0.18ℓ。

(注6) 石は容積の単位。1石は約180ℓ。本稿ではℓ換算せずに原文の通りとした。

(注7) 江戸時代以来、下掃除人、汲取業者、御問屋、下肥仲買人などいろいろ呼ばれていたが、明治時代も末になると組合が組織されたり、会社組織になったりし、ほとんどが肥料組合や肥料会社になった。業態も安定し恵まれていたようである。

(注8) 本質問書が出されたのが、1922(大正11)年であるから1921(大正10)年と思われる。

(注9) 現在のJR武蔵野線はまだ存在していない。1915(大正4)年に池袋～飯能間に開業した西武鉄道の前身である武蔵野鉄道と思われる。

(注10) 1荷とは、2斗入の肥桶2つ分、つまり4斗ということ。1斗は10升、1升は約1.8ℓ。すなわち4斗は約72ℓのこと。

(注11) 貨幣の単位。100分の1円。参考として、当時の主な物価は豆腐5銭(大正11年)もりそば・かけそば8～10銭(大正9年)入浴料5銭(大正11年)白米10kg小売価格3円4銭(大正11年)であった。

(注 12) いわゆるトラックであるのか乗用車であるのかは不明。1923（大正 12）年発災当時の自動車登録台数は正確にはわからなかったが 1921（大正 10）年には、まだ全国で 1000 台にも満たなかった。しかし 3 年後には 8000 台近くに急増している。当時大変高価、貴重な輸送手段であったことには間違いない。そのような中、9 月 12 日に警視庁が、9 月 14 日には内務省が、被災を免れた貴重な自動車を本務としての使用に優先して尿尿処理用に転用することを許可したことは、大変興味深い。また、自動車もさることながら、ガソリンの供給に不足が生じなかったのであろうか。東日本大震災に際して、被災地のみならず全国的にガソリンの供給が不足したことは、私達の記憶に新しいところである。さらに、当時は舗装道路も限られている中、焼跡の瓦礫や釘などによるパンク等は生じなかったのであろうか、疑問は尽きない。

(注 13) 急遽設置した便所のことを記録に残す際に単に「便所」と記す事無く、あえて「仮」の言葉を加え「仮便所」と記している点は興味深い。今日、「仮設トイレ」などと呼称し、「常設のトイレ」と区別しているが、当時もその概念があった事が知れる。また、このような仮便所は市が設置したものだけではなく、さまざまな立場で設置されていたことは想像に難くない。例えば、多くの避難者を受け入れた、東京帝国大学においても「仮便所」を設置したとある。

(注 14) 警視庁は内務省と同じく焼失し、東京府立第 1 中学校（現都立日比谷高等学校）を仮庁舎として使用した。建物は解体に際してダイナマイトで爆破された。現在は第 1 生命日比谷ファーストが建っている。

(注 15) 東京府庁の 2 代目庁舎は 1894（明治 27）年、現在の千代田区丸の内 3 丁目に竣工した。1898（明治 31）年に府庁舎の東半分を借り受け、東京市役所が開設される。東京府庁と東京市役所は 1943（昭和 18）年の東京都発足まで同じ敷地で同居していた。

(注 16) 現東京都千代田区霞ヶ関 2 丁目 1 番地に所在した中央官庁。当初殖産興業や鉄道、通信なども所管し、大蔵省・司法省・文部省の所管事項を除く内政の全般に及ぶ権限を有していた。大正期には地方行政・警察・土木・衛生・社会（労働）・神道の分野に限られるようになった。震災時に火災により焼失したため、内務大臣官邸に移転した。

(注 17) 下水道の被害状況等に関しては『東京市下水道震害調査報告』（東京市下水道課 1925 年）に詳しい。同書では結論として「大地震により下水道施設が蒙った被害は（中略）、ある特殊な 2～3 を除けば、被害の程度は比較的軽微であり、下水道の目的に重大な支障を及ぼしたものはない。」としている。なお、同書は東京都下水道サービス株式会社から下水道アーカイブス事業として、他の明治・大正期の貴重な文献とともに口語訳復刻されている。このような貴重な文献に新たな生命を吹き込み後世に語り伝える事業は大変意義深いことである。鑑とせねばならないと考える。

(注 18) 斗は容積の単位。1 斗は約 18ℓ。

(注 19) 東南アジア産の植物繊維による筵のこと。輸入された米や砂糖の袋包装に使用された。

#### 主要参考文献

『東京市震災衛生救療誌』 東京市衛生課 1925 年

『東京市下水道震害調査報告』 東京市下水道課 1925 年

『東京都における尿尿処理の変遷』 黒川義雄監修 みやこ出版社 1961 年

『東京百年史 第 4 巻』 東京百年史編集委員会 東京都 1972 年

『値段の風俗史』 週刊朝日編 朝日新聞社 1981 年

『東京都清掃事業 100 年史』 東京都清掃局総務部総務課 財団法人東京都環境整備公社 2000 年

『ごみと日本人』 稲村光郎 ミネルヴァ書房 2015 年

『陸軍と厠』 藤田昌雄 潮書房光人新社 2018 年

山本耕平 運営委員 / (株) ダイナックス都市環境研究所代表取締役会長

## 「温故知新」～これまでの協会と今後～

### はじめに一連載にあたって

私が日本トイレ協会の設立にかかわり、事務局長を務めたのは95年までの約10年間。その後しばらくしてトイレ協会の活動からは離れてしまった。その事情はいろいろあるが、2013年に高橋志保彦氏が会長になって会員として復帰した。したがって企画の趣旨である「これまでの協会」については、発足当初から10年間の出来事を記すことしかできない。しかし40年近く前にトイレ協会を設立した背景や、初期の10年間はまさに「トイレ革命」の黎明期であり、私の記憶にはたくさんのエピソードがまだ残っている。

当時からおつきあいのある方々もおられるし、私の「トイレ協会空白の10年」の間に、新生トイレ協会の発足にご苦労された方々もおられる。その時代の話は、あらためて書いていただくとして、私はトイレ協会のルーツと初期の活動のことを書くこととする。なにごともし始めの時期は面白いことが多いので、書き始めるとどんどんボリュームが増えてくる。したがって本稿は連載という形になることをあらかじめお断りし、ご覧いただければ幸いです。

### それは空き缶のポイ捨て問題から始まった

日本トイレ協会発足の発端は、「トイレトピアの会」というトイレの話題を肴にお酒を楽しむ会である。話はまずそこから始めたいと思うが、きわめて個人的なことから書き始めることをご容赦いただきたい。

私は1977年に早稲田大学を卒業して、神戸市役所に入庁した。大学では地方自治のゼミに所属し、杉並区高井戸の清掃工場建設と江東区のごみ埋め立て処分場をめぐる「東京ごみ戦争」をテーマに卒業論文を書いた。そのおかげで、環境局というごみや尿尿を担当する部署に配属された。ごみ問題は東京だけでなく全国で深刻な社会問題となっており、自販機が急増して空き缶のポイ捨てが多くの観光地で問題となっていた。その代表格が京都である。

途中の経緯は省くが、1983年に市役所を退職して、ドゥタンク・ダイナックスという小さなシンクタンクに転職した。現在の会社の前身にあたる。私を東京に誘ったのは代表の故田中栄治さん。実はこの田中さんが実質的なトイレ協会の生みの親である。

さてドゥタンク・ダイナックス（環境問題研究部）は空き缶等のポイ捨て対策に取り組んでいて、私も観光地の調査を担当した。主なフィールドは「空き缶条例」の制定を目指していた京都で、ディスカバー・ジャパンでブームになっていた大原や、嵐山、その上流の清滝、嵯峨野などに足を運んで観光客の入り込み状況やポイ捨ての実態、ポイ捨て防止のための社会実験などを行っていた。

そのときに空き缶より気になったのがトイレである。とても国際観光都市にはふさわしいとは言えない状況で、バスターミナルの数少ないトイレには「バス利用者以外は使用禁止」という張り紙には、加えて「利用者以外が使用している場合はやめさせます」という趣旨の文言が書き添えてある！清滝では河原でバーベキューを楽しむ人が集まるが、トイレは河原のはるか上にぼつんと佇むだけである。あるとき車イスの人たちが河原に下りてきて、いきなりテントを張るのである。まずトイレの準備からだという。

こういう場面を他の観光地でもしばしば目にする中で、トイレをなんとかせねば・・・という気持ちが大きくなってきた。

### 「サロン集」とトイレトピアの会

さて、かつて西新橋のビルの地下に「サロン集」というサラリーマンのたまり場があった。田中栄治さんが仕掛け人で、みんなで出資してつくった店である。ここでは毎晩いろいろな会があり、うまい酒と料理、面白いネタで談論風発する「サロン」である。私は「ゴミニティ」というごみ問題をネタにした会の世話人をしており、都市問題をネタにした「トシコロジ」、日本酒ブームの先駆けとなった「幻の日本酒を飲む会」、「流行歌どこまで聞ける会」、哲学と宗教をネタにした「ボンズの会」等々たくさんの会があった。たまにはジャズのセッションが行われ、大人の遊び場であり、今ならリアルSNSというところか。霞ヶ関の官僚もいたし、メンバーからは国会議員になって大臣になった人もいた。

サロン集はいろいろな事業、活動のインキュベーションの場となっており、私たちも新しいテーマに取り組むときは、サロンで関心ある人たちに声をかけて会を持つことから始めた。(ちなみに公務員時代に神戸や大阪でサロンのまねごとを始めたことが、転職のきっかけである。)

ある日、田中さんから「山本君、トイレやらない?」と言われ、サロン集で「トイレトピア研究会」(のちにトイレトピアの会)を立ち上げることにした。1984年の春のことだったと記憶している。私がトイレ問題に関わるようになったきっかけである。最初のメンバーとしてサロンの常連の人たちや、身近におつきあいのあったいろいろな分野の専門家に声をかけた。そのうちにマスコミ、官僚、医者、企業などいろいろな人が集まるようになった(高橋前会長、小林会長、横浜国大の小滝先生、レンタルのニッケン社長と寅太郎氏、INAX社長の伊那輝三氏、心療内科の開業医だった鴨下一郎元環境大臣など、錚々たる顔ぶれ)。トイレを肴に酒を飲むという、風変わりな会であったが、好事家の集まりではなくトイレを社会問題、都市問題としてとりあげた会は珍しく、またトイレを切り口に多様な領域の議論ができることも楽しかった。



## NHKがトイレをニュースでとりあげた!

その頃はたいていの国ではトイレの話題はタブーだった。日本ではタブーというほどではなかったものの、トイレをネタにする「サロン」はマスコミの注目を集めたようだ。

トイレトピアの会のネタは主に公共トイレで、自治体の管理する公衆トイレや駅、高速道路などの公共的なトイレを話題にした。メンバーがいろいろなトイレの写真や情報を持ち寄って、スライドを見ながらいわいところから始めた。すると意外にも建物の意匠に工夫を凝らしたトイレがぼちぼち登場していたのである。多摩ニュータウンの公園、横浜や名古屋、広島などの都市では特徴的な外観のトイレがつけられていた。私は全国の市と特別区にアンケートを行い、公衆トイレや公園のトイレが人口4500人に一つ程度あることを報告した。

悪評紛々だった国鉄(当時)のトイレも、現場ではいろいろな努力が行われていた。津田沼駅や御茶ノ水駅、横浜駅にはトイレの内部に「壁画」を描いたトイレが登場した。国鉄は駅舎や列車のトイレをずいぶん研究していることも知った。

トイレのバリアフリーという概念に乏しかったが、高速道路に「車イストイレ」の設置を求めて「身障者運転協会」という団体をつくって活動している方と道路公団の関係者が、トイレトピア研究会で意見を交わすといった場面も生まれた。次第に「トイレ」が抱える課題が見えてきて、学際的、業際的なアプローチが重要だということを知った。

そんなことを知り合いの大手新聞の記者に熱く語っていると、大きく記事にしてくれた。別の大手紙も夕刊の3面にトイレの写真をずらっとならべた記事を掲載してくれた。ある日、NHKの報道記者がトイレとは関係ないことで取材に来た。インタビューのついでにトイレの話も熱く語ったらニュースにするという。しかしトイレの話題をどこの時間帯で放送するか、社内ではずいぶん議論があったそうだ。花形の「ニュースセンター9時」の予定が、晩飯時にトイレとは!ということで、朝のニュースの時間帯になった。

朝飯時はいいらしい。大手紙とNHKによってトイレの話題はマスコミのタブーを打ち破り、それ以降は次々と様々なメディアで取り上げられることとなった。報道の影響は大きく、自衛隊の官舎に住む主婦の方からは、「官舎のトイレが汲み取りで、外国人を自宅に招くことができない。ぜひ頑張って日本のトイレをよくしてほしい」と、わざわざバザーを開いて収益をカンパしていただいたこともあった。

「ジャパンタイムス」にもトイレトピアの会が紹介された。英字紙にのると海外のメディアからの取材が来るのだ。イギリスBBCのスタジオ（TBSにあった）に行きインタビューされたこともある。フランスの公共テレビ Antenne 2 からは、撮影クルーがやってきた。これがきっかけで、「日仏トイレフォーラム」を開催するはこびとなる。この話はまたあとで語ろう。

## 日本トイレ協会の設立

トイレトピアの会がメディアを賑わす中で、田中栄治さんからちゃんとした組織を作ろうという提案があった。いろいろな関係者にも相談して、「日本トイレ協会」を設立することを決めた。協会を名乗っても当初は会員もおらず、会費も財政的な基盤もまったくない。単に看板を掲げただけだ。

初代会長は西岡秀雄先生。代表幹事は田中栄治さん、私は事務局長だ。西岡先生は慶大名誉教授で当時は大田区立郷土博物館館長。西岡先生とのお縁も話しておかなければならない。たまたま本屋で国鉄トイレに絵を描いていた「トイレ壁画デザイナー」松永はつ子さんの著作「トイレトピアお嬢さん奮戦記」をみつけた。直ちに連絡を取って、トイレトピアの会のゲストスピーカーとしてお招きしたところ、彼女が社会人学生として在学していた慶応大学から西岡先生を連れてきてくれた。西岡先生とのお縁はここからである。

西岡先生はきわめてユニークな方で、専門は考古学。大学では人文地理を教えておられた。いろいろなものをコレクションされていて、世界のトイレトピアのコレクションもあった。世界中を旅しておられるのでトイレの話題は極めて豊富。そういうわけでトイレ協会会長をお願いした。西岡先生のことは稿をあらためて紹介したいが、秘書の谷さんといっしょに会にはほとんど足を運んでいただいた。飲むのはウイスキーの水割りだと決まっていた。

設立パーティのゲストとして、トイレ学の泰斗である李家正文（りのうえまさふみ）氏に講演をお願いしに行った。快諾していただいたが、パーティでは持ち時間を大幅に超過してお話されるので、おそろおそろメモを差し出したら、すごい剣幕で叱られたことを思い出す。トイレを語る同士ができてうれしかったので、話が弾みすぎたと思っておきたい。

84年に私はダイナックス都市環境研究所を立ち上げ、田中さんは地域交流センターという組織を立ち上げていた。トイレ協会の事務局は地域交流センターに置くこととしたが、実質的には私の方で引き受けた。地域交流センターには上幸雄氏（のちに事務局長、日本トイレ研究所元代表）が出版などの仕事をしており、私とは二人三脚でトイレ協会を動かすこととなる。（ちなみに、ゴンドラの浅井幸子さんは地域交流センターのスタッフとして入社し、その後のトイレ協会にも関わるようになる。）

会社の女性社員が銀行で「日本トイレ協会さ〜ん」と名前を呼ばれると、いっせいにみんなの視線が集まるので恥ずかしいと、よくぼやかれたことも懐かしい思い出である。ニュースレターをつくり、会員を募集しながら、「全国トイレシンポジウム」の企画をやった。メディアの取材は引きも切らず船出は順風満帆だった。ただしお金のことを除けば、である。

2023年3月14日(火)にオンライン(ZOOM)にて、子どもとトイレの勉強会が開催されました。

## トイレの音環境について

第2回の子どもとトイレ勉強会は「トイレの音環境について」をテーマに行ないました。小学生から高齢者まで排泄時の音が気になって学校や会社などで排泄しづらいという問題を抱えている人は相変わらず少なくないようです。山路茂則著「トイレ考現学」には江戸時代にはすでに「音消し壺」の存在があり、身分の高い者や姫君などが排泄時の音をカモフラージュするために使用したと書かれています。我が国では何世紀もの間、排泄の音に対して恥ずかしさを感じ、その対策をあれやこれやと試してきたのでしょうか。本勉強会では中高生の排泄時の音に対する意識調査などをまとめられた岡山県立大学大学院生の矢口絵理奈さん、メーカーとして音消し装置の開発に関わってこられた(株)LIXILの中村治之さん、排泄行動の発達の变化について常磐短期大学の村上八千世の3人で多角的な視点から議論してみることにしました。



### 「学校施設におけるトイレ空間の音環境に関する基礎的検討」についての発表

矢口 絵理奈 学生会員 / 岡山県立大学大学院

## 1. 研究背景

近年の学校施設のトイレは、リフォームや洋式化によって6Kが解消され、綺麗で嫌悪感の少ない空間に近づいていると考えられます1)。

しかし、LIXILが小学生から高校生に対して行った調査2)では、学校で大便を「どうしてもガマンできない時だけする」(44%)、「絶対にしない」(9%)と回答しており、学校での排泄時にかなりの子供が“ガマン”していることが示されました。その理由は、「他人に知られたくないから」などが半数近く、周囲への意識が排泄の妨げの要因であることが明らかになりました。このことから、排泄への羞恥心や嫌悪感を軽減するためには綺麗な空間にするだけでなく、利用者のプライバシーの保護が必要であると考えられます。

ここでプライバシーに関して音の面から見てみると、2010年の松本らの既往研究の中で、10代の女性の約60%、男性の約10%が自宅外で排泄音を気にしており、気にする人の多くが水を流す、擬音装置を使用するなどの排泄音を隠す工夫をしていることが示されました3)。一方、学校施設では予算等の問題から擬音装置は設置されていないところが多く、どのようにつけるべきかの設置指針もありません。

以上の背景を踏まえて、本研究では、プライバシー保護の観点から学校施設のトイレ空間に求められる音環境の探索を目的に、トイレ空間の現状の把握と、擬音装置の改良について検討を行いました。

## 2. 研究内容

香川県内の中高一貫校で全校生徒(2021年:557名、2022年:521名)を対象に、①トイレ空間の音環境に対する意識や擬音装置の利用状況に関するアンケート調査、②トイレ空間の発生音のレベル測定、③擬音装置仮設実験を行いました。厳密には2年度で実施したため、同じ人に2度聞いている場合もありますが、個人の追跡は行っていません。ここでは別個の回答として扱います。

### 2.1 結果:①トイレ利用に関する意識調査

現在のトイレ空間に関する評価の結果では、トイレで大便をすることへの抵抗は、女性は78%、男性は52%、全体では66%と男女ともに半数以上が感じていると回答しました。LIXILの調査結果2)と併せて見てみると、小学生から高校生まで幅広い年代の子どもたちの多くが大便をすることに抵抗があり、我慢をしていると考えられます。排泄音を隠したいと思う人の割合は女性92%、男性58%で、男女ともに多くの人が隠したいと考えていることがわかりました。また、2010年の松本らの既往研究3)と比較すると商業施設などを含む自宅外と、日常的に使用する学校での違いは考えられますが、排泄音を意識している人の割合は増加している可能性が考えられます。

次に、擬音装置の認知度と使用経験について見てみると、女性の認知度はどの学年もほぼ 100% 近く、使用経験も 90%以上でした。一方、男性は学年が上がるごとに認知度が増加する傾向があるものの、高校 3 年生でも約 85% でした。またそれに伴い、使用経験も 20%程度にとどまっており、男性の認知度と使用経験に大きな差があることが明らかになりました。2 年度を比較すると女性は大きな変化はなかったものの、男性は各学年 20%程度認知度が増加していました。

## 2.2 結果：②トイレ空間の発生音のレベル測定

測定箇所は学内のトイレ 5 か所で、各トイレ内の 5 点にマイクを配置し、暗騒音、基準とする個室から発生させた擬音装置の音と流水音の大きさを測定しました。測定結果では、トイレ入り口の減水量は擬音装置が 9.6dB、流水音が 11.7dB とあまり減衰しておらず、そのまま音が廊下まで聞こえてしまっていることがわかりました。また、前述のアンケートの自由記述では、静かな夜の学習時間は、擬音装置に限らず、足音やドアの音までトイレの外に聞こえてしまっているという意見もあり、トイレ空間全体や、パーテーションの遮音性能の向上が必要であると考えられます。

## 2.3 結果：③擬音装置仮設実験

ボタンによって 3 種類の音を選択的に再生可能な擬音装置を開発、仮設する実験を行いました。擬音装置は Raspberry Pi Zero を中心とし、音源は江戸時代に使われていた擬音装置「音消し壺」を参考に、碎石の上に水を流した時の発生音を収録し、200 Hz 付近、500 Hz 付近、2000 Hz 付近をそれぞれ大きくするように調整しました(以下、LF、MF、HF)。再生音量及び再生時間は、アンケートの結果を踏まえ 70 dB、35 秒に設定しました。設置後、実験用擬音装置の印象評価について、アンケート票を意識調査と同様の手順で配布し回答を依頼しました。なお、この実験では男性用トイレにおける擬音装置の需要を調査するため、現在は擬音装置が設置されていない男性用トイレも対象としました。

結果として、既存のものと開発した擬音装置 3 種の音源で比較すると、音量についての評価では、MF が既存のものよりも適切であると感じた人が 9%多い結果となりました。また、いずれの音源でも 20%程度の人は音量が大きいと回答しました。再生音量は既存の擬音装置よりも小さいか同等である 70dB であり、排泄音を隠すためのマスキング音の音量設定が過剰である可能性も考えられます。

効果の実感について、マスキングの理論や聴覚の特性から LF や HF の効果が期待されましたが、既存の擬音装置に近い MF の評価が最も高い結果でした。MF については、再生時の音圧レベルを既存の擬音装置の平均よりも小さく設定したのにも関わらず、既存の擬音装置と同等の人が効果の実感を得たと回答しました。要因としては、音質や再生時間の改善が考えられます。

学校施設における擬音装置の必要性について、女性 90% 以上、男性 50% 以上が必要と回答しました。一方で、設置要望では男性は 40% 程度でした。男性は隠したいと思っている人が 60% 程度であり、擬音装置の設置要望とは差があることがわかりました。自由記述では、擬音装置の使用が恥ずかしい、使用で排泄していることが目立ってしまう、という意見があったことから、男性への排泄音のマスキングは需要がある一方で、求められるマスキング手法は女性と異なる可能性が考えられます。

## 3. おわりに

トイレの音環境に関する意識調査より、中学生、高校生は男女ともに多くの人が排泄音を隠したいという意思があることが明らかになりました。次に音響測定から、遮音性能向上など建築的対応の必要性も示されました。擬音装置の設置実験により、男性用トイレには排泄音を隠す設備がなく、また擬音装置を使用することに抵抗感があることがわかったため、男性用トイレと女性用トイレはそれぞれで適した排泄音のマスキング方法を考える必要性が示されました。

### 参考

- (1)文部科学省，公立学校施設のトイレと状況について，令和 2 年 9 月 30 日
- (2)LIXIL，([https://newsrelease.lixil.co.jp/news/2013/120\\_newsletter\\_1119\\_01.html](https://newsrelease.lixil.co.jp/news/2013/120_newsletter_1119_01.html))，2013 年 7 月
- (3)松本 他．トイレ排泄音に対する意識と擬音装置使用実態に関する研究，空気調和・衛生工学会大会 学術講演論文集，2010 年 8 月 12 日，p.65-68.



## パブリックトイレの快適な音環境を考える

中村治之 法人会員 / 株式会社 LIXIL スペースプランニンググループ

### 1. ユーザーアンケートにみる擬音装置の需要

擬音装置は施設を問わず一定のニーズがあることがわかっています。「オフィスにおいてトイレを利用するときに重視をすることは？（複数回答）（男性 n=515、女性 n=515）」1) という調査では、女性の 33.4%、男性の 4.7%が「擬音装置がある」と回答しました。男性は、音は気になるけど擬音装置はなくてもいいという中間層がかなりいると考えられます。また、「お店のトイレ・洗面に欲しい設備は？（複数回答）（全体 n=444、男性 n=179、女性 n=265）」2) には、全体では 5 番目、女性では 3 番目に「擬音装置」と回答されています。

また、実際出来上がったビルのトイレの調査をすると、オフィスでは中小規模ビル、大規模ビル共に女性トイレは 100%設置されていることがわかりました。一方で、男性トイレでは大規模ビルは 0%でしたが、中小規模ビルは 18%で設置されていました。LIXIL のシャワートイレには男性用と女性用があり、男性用には擬音装置は付いていなかったが最近是需要があるため、男女ともに擬音装置がついているものを販売しています。そのため、今後徐々に増えていくと考えられます。

### 2. 擬音装置の取り組み

擬音装置は、行為音を周囲に聴かれないように水を流していたのが発端で、節水を目的に設置されるようになりました。現在は利用者の要望も多く、施設用途問わず設置されています。

LIXIL の新しい擬音装置「サウンドデコレーター」の開発にあたっては、従来の擬音装置では「音は鳴っているけど、自分の音が無くなるような感覚ではない」等の意見があり、2018 年に 24 年ぶりにモデルチェンジを行い、その際に再生音の改善を行いました。行為音がマスキングされていない原因を音響解析したところ、以前の商品では実際に水を流す音を収録して再生していたため、マスキングに必要な周波数帯で音圧が不足していました。そこで、Roland と共同開発を行い、よりマスキング効果の高いサウンドデコレーターを制作しました。いたずらに音が大きく、肝心な音がマスキングできていない状況を改善することで、個室の外で聞いている方にも聞き心地の良いものになることにつながっていると考えています。

### 3. トイレプランと音の関係

トイレは排泄のためだけの場所ではなくなっています。ネットで行ったアンケート調査の結果から、学校トイレは子どもたちのコミュニケーションの場にもなっていると考えられます。「排泄以外でどんなことをしに行きますか」という質問では、「おしゃべり」の回答が男女問わず多くありました。中学生では、「身だしなみチェック」の回答が多くなります。

一方、オフィスでは、個室の中では、着替え、身だしなみチェック、スマホを持ち込みインターネットや SNS の確認など様々なことを行なっていることがわかりました。個室の外でも、身だしなみチェックやおしゃべりなどをしており、大人にとっても様々な行為をする空間であると言えます。

このような状況から、プライベートな空間とパブリックな空間が隣り合っているため、階層的にプライベート感を感じている人が多いのではないかと思います。個室を最小単位とし、男性トイレ、女性トイレをトイレエリア（同じ属性、目的の人）、その外に廊下、異性のトイレ空間などのトイレ外（違う属性、目的も違う）があります。トイレエリア内ではある程度音が聞こえることは許容しているものの、行為音そのものは聞かれないため擬音装置を使っているという状況です。ただ、このような意識は、時代とともに変化してきていると考えられ、人によっての認識の違いもあるため、パブリックトイレについての共通認識を形成する難しさがあると感じています。

最近では、機能分散が意識されています。車椅子利用者ではないが広めのトイレが使いたい場合や、異性介助などのニーズもあり、バリアフリートイレ以外に広めのトイレを提案することが増えています。男性用トイレ、女性用トイレを先述のトイレエリアとすると、それ以外に男女共用の個室が出現しており、多機能トイレなどと共に個室から音が漏れるのを防ぎたいエリアに配置されることも考えられます。

一方で、LIXIL で考案した個室完結型のオルタナティブトイレは様々な身体状況や利用目的等で個室を選択できるトイレという考え方です。一般的なトイレエリアではなく開放的な通路に接するプランにもなるため、実際にLIXIL の本社ビルに作った際には、「音」と「匂い」に最も考慮しました。各個室を建築的な壁で構成し音が外に漏れる不安を無くすことで、入り口付近にベンチと手洗いを設けたコミュニケーションを取れる場所と、奥に進んでいくと各個室が並ぶプランを実現しています。

## まとめ

オルタナティブトイレは個室型であるため、レイアウトの自由度を生み出している考え方です。音などのプライバシーが確保可能であれば、男女別または男女共用の個室をある程度自由にレイアウトできるため、メリットの1つだと考えられます。しかし、利用者のプライバシーの意識やコストの問題もあり簡単なものではないため、今後の1つの方向性として継続して検討をしていきたいと思っています。

擬音装置は周囲に音が漏れる対策として必要があります。しかし、トイレエリア内での音漏れに対しどこまで許容できるかポイントです。一方でトイレエリア外の音漏れに関して、トイレが設置されている場所によっては防犯も考慮しなければならないため、非常に難しい問題であると考えられます。

TOKYO2020 をきっかけに「多様性の尊重」が重視され、トイレのプランニングを考える上で「機能分散」「男女共用」「個室化」がキーワードとして出てきています。新しいトイレプランの理念と利用者のプライバシー感の乖離が起こらないように今後取り組んでいかなければなりません。

## 参考

- ① オフィストイレの意識調査, 2022年, LIXIL
- ② 飲食チェーン・トイレの意識調査, 2021年, LIXIL (洋風ファーストフードの場合)
- ③ 学校のトイレに関する意識調査, 2013年, LIXIL



## トイレ使用時の恥ずかしさの発達について

村上 八千世 運営委員 / 常磐短期大学准教授 アクトウェア研究所

### 1. 大学生の振り返りインタビュー調査より

大学生へのインタビュー調査(村上,2016)で幼稚園・保育園,小学校,中学校,高校,大学の各時期と自宅,駅・デパートでの排泄行為について恥ずかしさのために我慢をしたことがあったかどうかを訊ねたところ,多くの対象者は小学校の頃に恥ずかしさのために我慢を経験したと答えました。小学生の男子は排便時の恥ずかしさを感じ我慢することが比較的多いのですが,中学,高校へと進むに伴いその恥ずかしさは減少していく傾向があります。小学校では6年間にわたりクラス単位での活動が多く休み時間も一緒に取る生活ですが,進学に伴い,いつも同じメンバーで行動することが少なくなることが影響しているのではないのでしょうか。自宅やデパート・駅では恥ずかしさは生じておらず(男子),自宅の家族のように大変親しい間柄や,デパート・駅のように全く見ず知らずの他人にはそこまで恥ずかしさを感じていないようです。恥ずかしさを感じるのは親しい家族でも全く知らない他人でもなく,「友だち」のような中間的な親密さをもつ人間関係の中で生じているのです。菅原(1998)はそれを「中間的親密さの法則」と呼んでいます。

男子は小学校時代に学校で排便を我慢するのは「『学校では排便するものではない』という暗黙の了解があった」からであり,学校で排便すると他児からからかわれたりするからだと答えていましたが,女子の場合も「他者から排便したと思われること」を避けるためであり,実際には排便をしていなくても「したと思われる」ことをいやがっていました。さらに排泄時の音に対する意識は男児より高く,小学校の低学年から高学年になるとより排泄音を気にするようになっていきます。そして音への意識は小学校で治まることはなく,中学,高校,大学に進んでも継続し,デパート・駅など周囲の人が全く知らない他人に対しても意識することがわかっています。中学校以降になると「音は消すもの」となり,周囲の人の親密さは関係なく,用足し時のエチケットとして自分の排泄音を何かしらの方法で消すことが「マナー化」してゆき,音消し装置が設置されていない場合は,水を何度も流したり,トイレトーパーをカラカラ鳴らしながら用を足すことになるようです。

### 2. 「音」は果たして恥ずかしいことなのか?

排泄時の音が恥ずかしいから,音消し装置を使ってカモフラージュしようとして,それが当たり前になってゆき,音を消さないのは無礼な行為となりつつあります。「音消し装置」は音を他者に聞かれる恥ずかしさに対策するためのツールであったはずですが,「音消し装置」の存在自体が「排泄音は恥ずかしいもの」という概念を生みだすようになってしまったともいえるのではないのでしょうか。学校のトイレはここ数十年で目覚ましく改善され,汚くて,臭くて,暗くて,怖いという4K問題も解消されてきたからこそ,音が恥ずかしさとしてクローズアップされてきたのかもしれませんが,音だけでなく,ニオイやトイレに入る行為自体も恥ずかしさの対象とされ,排泄そのものを否定する現実,人が自らの身体性を否定していることに等しいでしょう。私は「便育」活動を行い,子どもたちに自分自身の排泄物を見て,色やニオイ,形から自分の健康状態を把握できるように指導していますが,「音」もやはり健康状態のバロメーターであるはずですが,排泄音の恥ずかしさへの対策として「音消し装置」は今後も必要とされていくでしょうが,対策は「音を隠す」ことだけではないはずですが,排泄時の「音」も含めて,排泄そのものが恥ずかしいことではないことを教育的に発信してゆくことも効果的であるはずですが。

#### 参考

村上八千世.(2016).排泄行動における恥ずかしさの発達,常磐短期大学研究紀要,45,23-30

村上八千世・根ヶ山光一.(2004).なぜ小学生は学校のトイレで排便できないのか?,学校保健研究,46(3),303-310.

菅原健介.(1998).人はなぜ恥ずかしがるのか 羞恥と自己イメージの社会心理学.サイエンス社

新型コロナウイルス感染症も落ち着き、今年度は会場とオンラインとのハイブリッド開催となりました。多くの会員に会場へ来ていただき総会後の記念講演とともに盛り上がった総会となりました。終了後の懇親会へも多くの参加者があり久しぶり或いは初めての会員同士が交流を深めることができました。

開催日時	2023（令和5）年6月3日（土） 13:00～14:50
開催場所	文京シビックホール会議室 1+2 及び ZOOM オンライン会議室
出席者数	出席者 58名（会場 44名、オンライン 14名）
成立確認	議決権総数 207名のうち、102名（会場 36名、事前表決及び委任状 66名）が出席し、定款第16条による定足数（議決権の3分の1以上）を満たし総会は成立
司 会	中村祥一運営委員
議 長	赤堀時夫副会長

第1号議案 2022年度 活動報告

第2号議案 2022年度 収支報告及び監査報告

第3号議案 2023年度 活動計画（案）

2023年度の活動計画（案）について、会場参加者より質問、意見があり、会長からの説明の後、次のように修正することで了承されました。

①総会資料 23 ページ 15 行目「新トイレットピアの会」及び「法人会員の会」について、以前開催していた会長懇談会の総括・反省をした上で新しいトイレットピアの会とすべきではないか。また、第4号議案にて予算が計上されているが計画案の記載がなく、活動計画が不明瞭である。

（修正）「新トイレットピアの会」及び「法人会員の会」について、改めて活動計画を会員に知らせる。

②総会資料 23 ページ 23 行目「統一できなくとも協会の意見として、責任をもって社会で発信できる回答」の表現について説明をしてほしい。

（修正）指摘箇所について次のように修正する。「協会の意見として、社会で発信できる回答」

③総会資料 25 ページ 3.1 第39回全国トイレシンポジウムの開催時間の表記が間違っている。

（修正）指摘箇所について次のように修正する。

「日程 2023年11月16日（木）10時開場 10時30分開会 16時閉会 予定」

第4号議案 2023年度 収支予算（案）

全ての議案について、会場出席者による表決及び事前表決、委任状を合わせて賛成が過半数を満たし承認されたことを確認し議長が解任されました。最後に、司会者より会員数の報告と昨年の総会以降に入会承認を受けた法人会員5社が紹介され、各社担当者より挨拶をしていただきました。午後2時45分に総会は閉会しました。

### 記念講演

総会終了後、15時より個人会員である日大工学部教授 中野和典先生に記念講演をしていただきました。テーマ「水を浄化するロハスの花壇の開発と自立型トイレへの応用」として、上下水道と電気に依存しない持続可能な水洗トイレ開発の取組みを中野先生の楽しいお人柄と語り口でお話していただきました。ユニークな発想の浄化システムに会場で聴講されていた会員も興味津々の様子でした。

なお、「水を浄化するロハスの花壇の開発と自立型トイレへの応用」は2020グッドトイレ選奨受賞作品です。トイレ協会ニュース21-1号でご紹介していますので、ぜひお読みください。

（リンク <https://do-amenity.box.com/s/7ox3u7xojyw4kpbn6vhlcw0nkp08dxws>）

（事務局）



日本セイフティー株式会社 ラップポン事業部 <https://www.nihonsafety.com/>

## ラップポン®

### 日本トイレ協会への入会のきっかけ

弊社のグループ会社であり、日本トイレ協会の企業会員であるユーミックスの滝社長から力強い推奨を受けました。簡易トイレをレンタルや販売にて取り扱っている弊社としても情報を共有させていただいたり、収集させていただく良い機会であると思い、入会させていただきました。特に私が所属しているラップポン事業部は、独自開発したトイレを専門的に扱う部門になりますので色々な場面で協力体制が築けるのではないかと期待をしております。



### 会社紹介、事業内容を教えてください。



本業は建設資材のレンタル業になります。工事現場において仮設トイレのレンタルも実施しております。ラップポン事業部では、本業でレンタルしていた仮設トイレから着想を得て、排泄物を密閉個包装するシールユニットを搭載したトイレを独自開発し、製造・販売をしております。「臭いが漏れない」「バケツの洗浄手間がいらぬ」「菌を漏らさない」という清潔さに加え、「水を必要としない」などのメリットから介護、災害、医療、建設、レジャーほか、幅広い分野へと用途が広がっております。

### あなたのお好きなトイレを教えてください。

私個人的には洋式水洗トイレのウォッシュレット付きが好みます。細かい事になりますが、ドアは外開きの方が好きです。また、トイレトーパーはダブルタイプでツルツルしていない物が良いです。災害時や、アウトドアなど水が無い環境でトイレを使用しないといけない場面においては、手前味噌になってしまいますが、臭いや菌をフィルムの中に閉じ込めて衛生的に使用ができるラップポンシリーズが良いと思っております。



## 株式会社 小田急ビルサービス

株式会社 小田急サービス <https://www.odakyu-bs.co.jp/>



### 日本トイレ協会への入会のきっかけ

2022年10月27日開催の「第38回全国トイレシンポジウム2022」を聴講し、会場で小林会長、高橋名誉会長、山本理事にご挨拶させていただけたのがきっかけです。

### 会社紹介、事業内容を教えてください。

総合ビルメンテナンス企業」の小田急ビルサービスです。弊社は、1966年の設立以来、総合ビルメンテナンス企業として、社会の変化や多様化するニーズに適応し、清掃・警備・設備管理などのビル総合管理を軸に、ビルの価値を高める建設工事、時代の要請による地域冷暖房運転、水処理事業を展開してきたほか、ビルや駅をご利用になるお客さまの利便性を向上させるための各種サービス（ファッショングッズ販売、催事、コインロッカーなど）も行っています。

#### ■ビル総合管理業

(清掃管理業務・警備業務・設備管理業務)

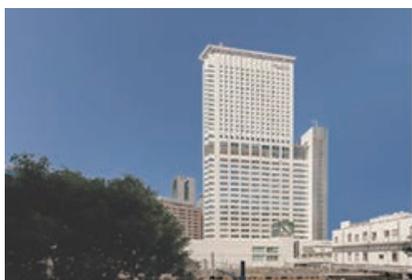
#### ■建設工事

#### ■地域冷暖房運転管理

#### ■各種サービス



小田急沿線を中心に事業展開



弊社が清掃を担当するトイレのうち交通結節点の駅は、ご利用される方が非常に多いのが特徴的です。お客様に快適な環境を提供するため、品質向上に取り組んでいます。

### あなたのお好きなトイレを教えてください。

私にとってトイレは、単に用を足すだけではなく、新しい発想やデザインを生み出す可能性を秘めた大切な空間と時間です。私の自宅を含め特に個室には窓がないものが多いようですが、小窓から借景や縮景の空間が望めたら、晴天でも雨天でもそれぞれ素敵な発想が湧いてきそうです。京都の圓通寺の比叡山を構図に取り入れた借景の庭には魅了されますが、このようなイメージの風景があると、トイレは贅沢な時を過ごす特別な空間になりそうです。こんなトイレが自分の生活空間にあれば好きになってしまおうと思います。

## 新入会員のご紹介



田村 房義さん 個人会員

**Q1 トイレ協会に入会したいと思われたきっかけ、理由はなんですか？**

公衆トイレの「キレイ化」に興味があり、実現するためには協会に入会して同様の考えを持つ会員の皆さんと活動するのが早道だと思ったから。

**Q2 どんなお仕事をされていますか？**

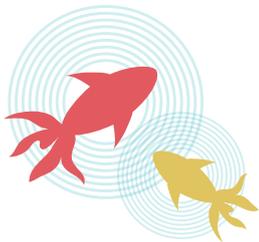
住宅設備機器メーカーで、バリアフリーやユニバーサルデザイン関連の業務を担当。

**Q3 会員として今後関わっていききたいことなどご自由にどうぞ。**

公衆トイレの「キレイ化」を、会員の皆さんと具現化に向けて活動出来たら、と考えています。

**Q4 あなたにとってトイレとは？**

日常生活の中で、最も関心のある場所。



川口 育子さん 個人会員

**Q1 トイレ協会に入会したいと思われたきっかけ、理由はなんですか？**

2年前のシンポジウムに参加し、トイレは人権という言葉が印象に残りました。過日行われたバリアフリー展で協会の方とお話する機会があり、目の不自由な人の立場での意見を発信して欲しいと言っていたことがきっかけです。

**Q2 どんなお仕事をされていますか？**

いろんな仕事をしてきましたが、メインは、現在は単身引っ越しの見積もり営業をしています。他に、リードユーザーや、短期的にスマートフォンを音声で使う勉強会の講師をされる方に対する講師の仕事もあります。また、コード化点字ブロックの普及のお手伝いもしております。

**Q3 会員として今後関わっていききたいことなどご自由にどうぞ**

視覚に障害がある人もトイレに困っているという事を知っていただき、解消に向けて皆様と活動したいと思っております。

**Q4 あなたにとってトイレとは？**

(知っているトイレ以外は) どこにあるかわからない未知のもの。和式は落ちそうになるし、便器の向きを探って、ペーパーの位置を探って、流す所は探ってもわからない！と焦る場所。よって、二次被害（腎盂腎炎）を起こすきっかけになるもの。



神字 里奈さん 学生会員

**Q1 トイレ協会に入会したいと思われたきっかけ、理由はなんですか？**

大学院で行なっている研究が、トイレ関連のものであり、専門的なトイレの情報を収集したいと考えた。また、トイレを専門としている方との交流を通して、トイレについての理解を深めたい。

**Q2 どんなお仕事をされていますか？**

学生です。今は大学院で「性自認に関わらず全ての児童が心地よく利用できる小学校トイレのデザイン」について、ピクトグラムやトイレ内部のグラフィックデザインを通して考えています。

**Q3 会員として今後関わっていききたいことなどご自由にどうぞ**

トイレシンポジウムなどのイベントに参加し、トイレに関する新しい知識をインプットしたいです。また、自身の研究についてのご意見も、よろしければ皆様にお伺いしたいです。

**Q4 あなたにとってトイレとは？**

生きていくために必要不可欠な場所であり、日常の豊さに貢献する場所。毎日何度も訪れる場所なので、明るく清潔に保ってあげることがとても重要だと考えています。



吉田 高之さん 個人会員

Q1 トイレ協会に入会したいと思われたきっかけ、理由はなんですか？

直接のきっかけは、仕事でコンビニトイレの問題を調べていた時に協会の存在を知り、仕事でたまに白倉正子先生に出会ったことです。

Q2 どんなお仕事をされていますか？

主にネットワーク関連、ビジネスホン、複合機、防犯カメラ、セキュリティシステム、の提案と設置です。お客様のお役に立つ為の会社です。

Q3 会員として今後関わっていききたいことなどご自由にどうぞ。

トイレのメンテナンス、トイレの管理維持（清潔）、防犯対策（窃盗、破壊、盗撮、連れ込み等）、コンビニトイレや公共トイレ問題、特に防犯という観点からは、セキュリティシステム構築のプロとしての視点で考えていきたいです。

Q4 あなたにとってトイレとは？

一言で表すなら「必要な場所」でしょうか。誰もが用をたすのに必要であり、仕事でも考える場所であり、生活に必要であり、拘りが必要な場所であり、掃除が必要な場所であり・・・etc 挙げていくとキリがないですがw



竹内 潔さん 個人会員

Q1 トイレ協会に入会したいと思われたきっかけ、理由はなんですか？

出展していたバリアフリー展で、同じく出展していた協会の方々に誘われ、その内容だけでなく、熱く語られた様に感銘を受け、意義や使命感などを感じたため。

Q2 どんなお仕事をされていますか？

自動車会社の研究所での知見を活かして、視覚障害者の外出を助ける技術、例えば白杖の部品を作っている一人社長です。今の関心事は、視覚障害者でも尊厳を持って使える公共トイレで、誘導ブロックを簡素化した誘導板などです。

Q3 会員として今後関わっていききたいことなどご自由にどうぞ

業界の方々には、視覚障害者の方々がどのように公共トイレを使うかを考えていただいて、課題を顕在化して共有し、その解決策とともに普及策を考えて、具体化させていきたいと思っています。

Q4 あなたにとってトイレとは？

日常のミニ健康診断の場所のようで、緊張します。



大塚 はるなさん 個人会員

Q1 トイレ協会に入会したいと思われたきっかけ、理由はなんですか？

卒業研究で「公衆トイレ」を取り扱いたいと思い、ネットで調べていました。そこでトイレ協会のセミナーなどでトイレに関する情報を知ることができると思い、入会させていただきました。

Q2 会員として今後関わっていききたいことなどご自由にどうぞ

セミナーを通して様々な立場の方と意見交換をし、トイレに対する知識を深めたいと思っています。

Q3 あなたにとってトイレとは？

「その場所を写す鏡」だと思っています。どれだけ良い施設であってもトイレ空間が整ってなければ印象が悪くなってしまいます。その場所をより生かすためにもトイレ空間を綺麗にすることは優先順位が高いと思います。将来はトイレ空間を最も重視する建築士になりたいです。そして、より多くの方に気持ちよく生活していただきたいです。

## 山本 浩司 ノーマライゼーション研究会代表幹事・理事 NEXCO 中日本株式会社東京支社

### 1.はじめに

一般社団法人 日本トイレ協会 ノーマライゼーション研究会(以下、「N研」という。)では、人が自立して暮らす上で、大きなウエイトを占めるトイレを軸にしながら、障がいのある人や高齢の人のみならず、様々な人々を対象に、社会生活を営む上で不可欠なトイレのあり方、みんなが安心して使えるトイレはどうあるべきかについて考える活動を展開し、1997年より、セミナーの開催を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大等を踏まえ、2020年より活動を休止させて頂いておりました。

しかしながら、昨今、政府による新型コロナウイルス感染症緊急事態解除が宣言されことを受け、N研セミナーの開催する運びとなりました。

### 2.N研セミナー内容

今回開催したN研セミナーの内容は下記のとおりです。

2-1 タイトル：良かったこと調査

2-2 開催形式：対面、及びオンライン開催

2-3 日時：令和5年5月20日 15:00～17:00

2-4 講師：公益財団法人 共用品推進機構 専務理事 星川安之さん

星川さんは、障害のある人や高齢の人の消費者団体や行政、研究機関、工業団体また海外の関連団体等と連携してニーズ調査で明らかになった課題の解決に取り組み、三者構成での検討で合意となった解決策を規格として開発し、製品サービスをより多くの人に使えるための普及啓発を図っています。

2-5 参加者：

対面 18名（トイレ協会会員 16名、非会員 2名）

オンライン開催 25名（トイレ協会会員 7名、非会員 18名）

2-6 内容：

わが国では、ノーマライゼーションの理念等を踏まえ、障害のある人及び高齢者等の日常生活における「不便さ調査」を実施し、課題発見と共に解決方法を検討してきました。

今回のN研セミナーでは、①共生社会と「モノ」、②共用品を作る、③良かったこと調査、④共生社会と「コト」の構成で、語っていただきました。

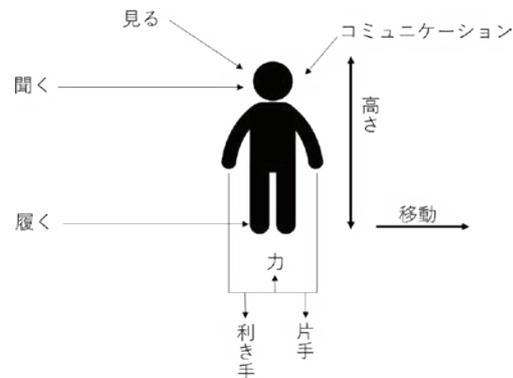
図引用元) 良かったこと調査 セミナー (以下同様)

#### ①共生社会と「モノ」

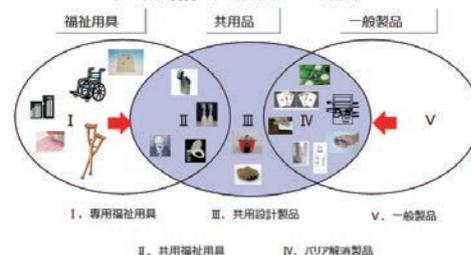
「共生社会」とは、「これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者が、積極的に参画をしていくことができる社会」と語釈が付けられていること、ここには欠かせないのが「社会モデル」という考えであること、更には、具体的な「社会モデル」の事例として、「誰一人取り残さない」の「誰」と「共生社会と「モノ」」について、語っていただきました。

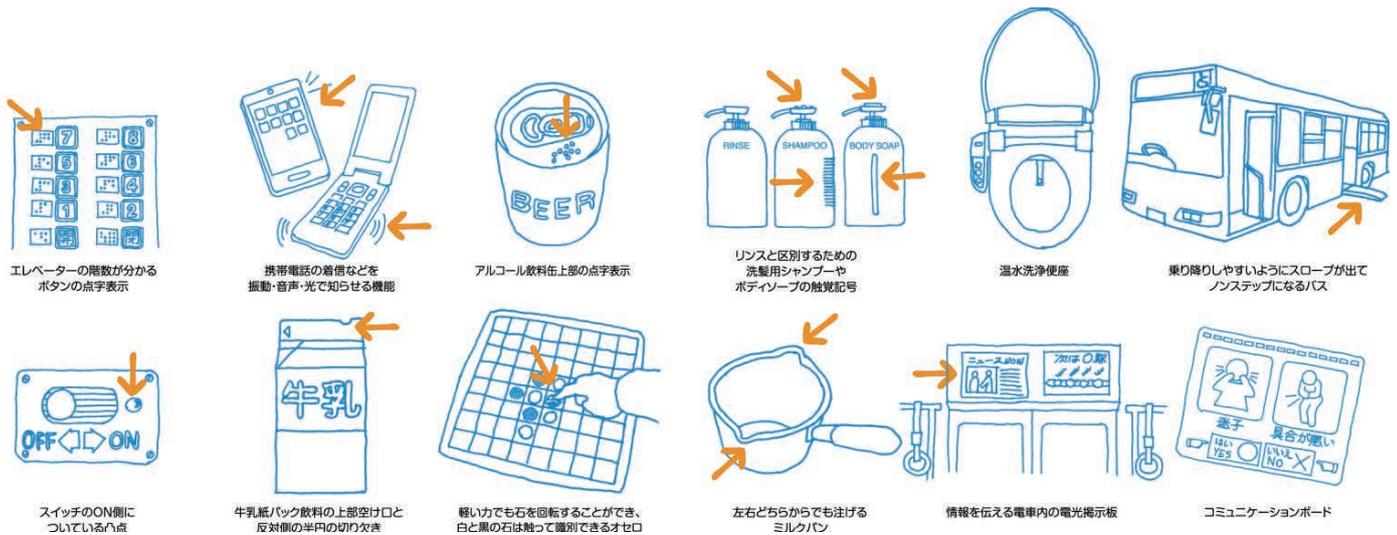
#### ②共用品を作る

製品を大別すると、障害があってもなくても使える「福祉用具」、障害のない人たちが使う「一般製品」、障害のあるなし、身長の高低、利き手の違いなどに関わらず、共に使える製品のことを「共用品」と定義できること、より多くの人々が使える共用品を作るために取り組んだ、1) 不便さ調査、2) 規格開発、3) 普及のステップについて、語っていただきました。



#### 共用品・共用サービス

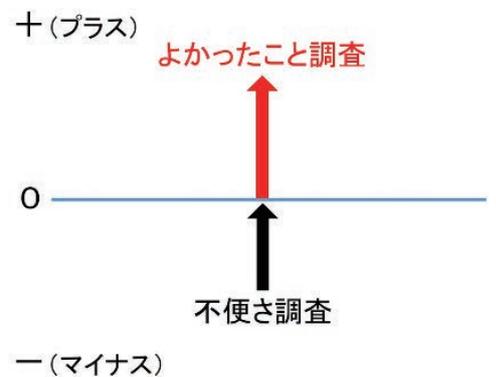




### ③ 良かったこと調査

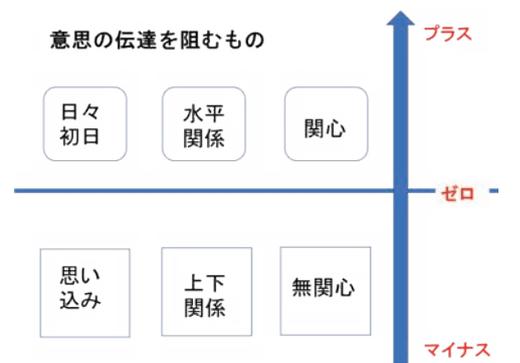
「不便さ調査」は、製品サービスの不便な点を明らかにすることで、マイナスだったところをゼロに戻す役割を担ってきました。また、不便さ調査は様々な障害ごとに行っていたため、相反する意見を把握することは困難であり、製品サービスを提供する側は、異なる対象（障がい者等）から出される異なるニーズを、広い視野に立った工夫をすることが困難な状況でした。

そこで、上記の課題を解決するために、共用品推進機構では、より多くの人達が使える製品やサービスが創出できるように「良かったこと調査」を実施したこと等について、語っていただきました。



### ④ 共生社会と「コト」

共生社会の一員として、思い込み、そして上下関係、無関心を取りのぞき、関心を持ち、正しく理解するため、共生社会と「コト」について、語っていただきました。



### 2-7.N 研セミナーに対するアンケート結果：

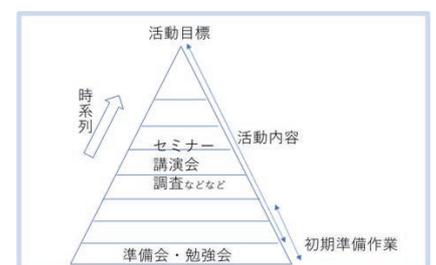
N 研セミナーに対するアンケート結果は下表のとおりであり、非常に多くの方から「とてもよかった」といった評価を頂けることができました。

セミナーの評価	運営と講演	講演	時間配分	質疑内容	総計
とてもよかった	7%	64%	14%	7%	93%
まあよかった	0%	7%	0%	0%	7%

### 3. N研の今後の活動計画

N 研の主な活動は、講演会の開催でしたが、さらなる活動の活発化を図るため、今後は、右図のスキーム（勉強会・調査などの追加）で活動を進めます。

なお、2023 年度は、調査として「トイレユーザーの属性」等を実施する予定です。



第 39 回 全国トイレシンポジウム

## テーマ 公衆トイレからつながる「まち」と「ひと」

毎年秋に開催しております全国トイレシンポジウムですが、本年度は下記の通り開催することになりました。ぜひ、ご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

### 趣旨

まちが来訪者を受け入れることに限らず、まちに住む人々の暮らしを支える上でも、公衆トイレは欠かせない存在です。本シンポジウムでは、2023 年 3 月に 17 カ所すべての公衆トイレの設置が完了した「THE TOKYO TOILET プロジェクト」（以下、TTT）をテキストに、公衆トイレと「まち」や「ひと」との関わりを考えます。シンポジウムの前半は、設計者が TTT という取り組みに何を思い、設計する上で何に挑んだのか、その結果として公衆トイレの可能性としてどう考えたかを伺います。その上で、トイレ側からのアプローチとして、公衆トイレの日常的なまちの中での位置付けや、公衆トイレが「まち」の中で担える新たな役割の拡張を考えます。後半は、まち側からのアプローチとして、全国各地で公衆トイレを提供する現場の実情や課題を伺い、パブリックのあり方やまちの拠点としての可能性など、地域資源としての公衆トイレの維持と人々との関わり方について考えます。

開催日程：2023 年 11 月 16 日（木）10 時開場 10 時 30 分開会 16 時 30 分閉会

会場：東京ビックサイト〈東京都江東区〉及び オンライン〈ZOOM〉

主催：一般社団法人日本トイレ協会

参加費：無料 / 会場定員 150 名

参加申し込み：オンラインによる申込み（9 月初旬に受付開始予定）

### プログラム

#### ◆第Ⅰ部 パネルディスカッション その1

「THE TOKYO TOILET」から何を学ぶのか

進行 藤山真美子（お茶の水女子大学文理融合 AI・データサイエンスセンター准教授）

登壇者 TTT トイレ設計者複数名依頼中

#### ◆第Ⅱ部 パネルディスカッション その2

まちにおける公衆トイレの可能性と課題

進行 浅井佐知子（設計事務所ゴンドラ）

登壇者 久住時男（前見附市長 / 全国まちの駅連絡協議会会長）

ほか 公衆トイレ等提供者

#### ◆日本トイレ協会会員からの活動発表 3 組程度

シンポジウム閉会后、17 時より交流会の開催を予定しています。

会場 未定 / 参加費 4,000 円程度（学生割引あり）

実行委員長：浅井佐知子（一社）日本トイレ協会運営委員 / 設計事務所ゴンドラ

問い合わせ：第 39 回全国トイレシンポジウム事務局 Email：sympo39@j-toilet.com

### JTA トイレ賞

2009 年度からスタートした「グッドトイレ選奨」は、審査基準を見直し、2023 年度より「JTA トイレ賞」と名称を改めました。「みんながいつでもどこでも気持ちよく使える」トイレ環境をつくり、それを持続できる社会をつくることを目標に、顕著な活動の実践や提案を行っている方を表彰するものです。トイレの環境づくりの模範になる作品を推奨いたします。詳細は、HP、別紙の募集要項を参照ください。

応募方法及び締切日：所定の応募用紙にて 9 月 20 日（水）までに Mail にて申し込み  
※応募用紙は日本トイレ協会 HP からダウンロード可能です。

【問い合わせ先】一般社団法人日本トイレ協会 JTA トイレ賞委員会  
募集担当：高橋未樹子 / 村上八千世  
E-mail：jta-toiletaward@j-toilet.com



## 第9回トイレ産業展のご案内

### 第9回トイレ産業展

今年も一般社団法人日本トイレ協会はトイレ産業展に出展します。  
昨年同様、全国トイレシンポジウムと同じ会場になりますので、みなさん是非いらしてください。

会期：2023 年 11 月 15 日（水）～ 17 日（金）3 日間  
会場：東京ビッグサイト東展示棟  
※来場のお申込み方法等の詳細がわかりましたらメールなどでご案内します。



# 私の 推薦トイレ

それは、それは、ありがたい恵みの救いのトイレ

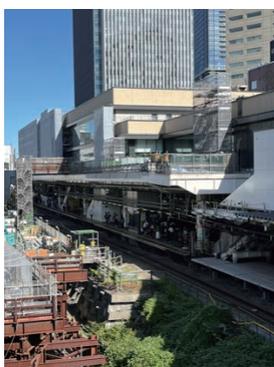
赤堀時夫 理事/赤鬼双輪会(サイクリングクラブ)主宰

## おたすけトイレ

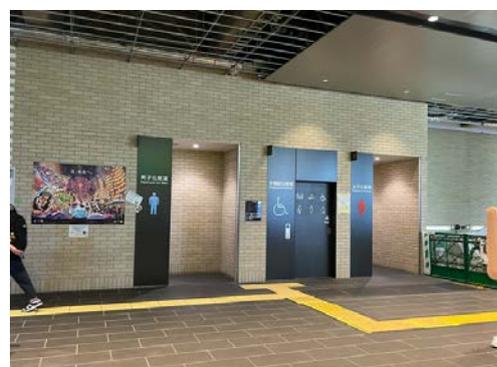
あなたの通勤通学途上には“おたすけトイレ”はありますか？私の推薦したいトイレとは、「あのトイレ、このトイレ」ではありません。困ったとき、切羽詰まったときに首尾よく利用できるトイレです。勤め人を卒業しておりますので、ここでの話しは、かつて助けてもらったお世話になったトイレということになります。通勤経路にあって、行列のない、しかも良好管理のトイレにたびたび助けてもらってまいりました。渋谷、新橋、お茶の水にありました。あらかじめ知っていた訳ではなく、そういうトイレを見つけ出したということです。いずれも公衆、公共の名の冠されたトイレではありませんでしたが、感謝一入のトイレ利用をしておりました。



JR 新橋駅のトイレ



JR お茶の水駅



JR お茶の水駅のトイレ

## 駅トイレの朝は必ず行列がある

かつて私はのん兵衛でした。山暮らしで覚え鍛えられた酒でしたから、下界住まいとなっても度を越すことがありました。その翌朝には消化器系に影響が出て車中で困ることの発生です。「チップはずむから3~4駅ぶっ飛ばして行ってくれない？」なんて運転手に頼めないかなんてことを考えながら気を散らしていた一方で、降車駅の空いているトイレはどこか、途中駅のトイレならどこかの考えも巡らせておりました。例えば長いあいだ乗り換えしていた上野駅のトイレ位置と混雑具合などです。中央コンコース、猪熊画伯の絵のある改札先ホーム左のトイレ（現在は移設）は、数十年間も遠距離列車ホーム隅の目立たない場所でしたから、通勤者に知られることのない存在でした。中距離列車ホームとなつてからは他のトイレ同様に混むようになり、トイレに向かった、着いた、入った、済んだ、というようにはいなくなりました。それでまた駅トイレの彷徨でしたが、差し迫る事態は度々のことではなかったので、のど元過ぎればというものでした。ただ厳しい経験ですから忘れられない訳で、何とかしなければというのはずっと持ち続けていました。それがあっての以下の思い付きと行動です。

## ありがたかった咎められないトイレ

朝の行列のないトイレはどこなところにあるか。どこかのビルはどうだろうかと思ひ至りました。オフィスビルでも下階にコンビニやレストランが入っているところならオープントイレがあるし、住民が減った結果の地域セターに衣替えした旧校舎なんか8時には開いていて、しかも朝の利用は殆どないという有難い存在です。当然ですが、ビル入口に受付があったり、通用口しか開いていないところはやっぱりヨソモノは入る訳にはまいりません。そこから、真面目に言うと法に抵触しない利用、普通に言うと非常識でない利用、ヘンだと思われぬ利用、迷惑を掛けない利用の出来るビル探しです。繁華な街というのは良いものでして、難しいことはありませんでした。通勤時や昼休みの観察で分かるのです。ビル正面が開いていて、人の頻繁な動きがあるところならトイレ借用の懸念はありませんでした。もちろん警戒されるような眉を顰められるようなことはしてきておりません。通勤経路の変遷ごとですが、渋谷2か所、新橋4か所、虎ノ門1か所、秋葉原1か所、お茶の水2か所を見出せました。何社も入るオフィスビル、飲食店ビル、大学、病院、元校舎なんかでした。それらは今なお利用可でしょうが、お名前は出しません。探せば見つかる、それも平時に当たっておけば上手くいくという経験でした。

勤め先の仲間に地図を作って配付すらしてありました。新橋で利用したビルトイレの印象に残ることがあります。入り口にはガードマンが立番していました。利用する時にはいつも「お早うございます」とにこやかに、微塵の後ろめたさも感じさせないような挨拶をしてありました。事後のビルを出る時には、さり気なく手帳（スマホ時代前）に眼を落し、これから営業に出るふうを装ったりしていました。何年後、勤務先事務所が引っ越しすることとなりました。勝手にお世話になっていたものですから、くだんのガードマンにトイレ借用を告白したところ、“バレてたら”でありました。不自然も不審な様子もなくスタスタとトイレに向かっていること、時おりそのビルの地下にあったレストランの利用を見かけることもあったし、間に合いそうもなく、切羽詰まって使っているんだらうなど、そう思っていたから「何処に何のご用事ですか」と聞くのは躊躇われたということでした。斯くの如く、私の推薦トイレとは、我が身にもたらされていた恵みの救いのトイレなのでありました。“開いてて、空いててよかった”と安堵できたトイレでありました。

## お世話になったことの申し訳なさを抱えています

毎日の勤務が無くなって久しく、電車の中で脂汗をかく事態からは解放されました。その後、彼の地の“おたすけトイレ”のお世話になることはありませんが、近くに行くことがありますと、有難さが蘇ってまいります。規制も排除もされませんでした。通りすがりの者の利用など考えてもいないトイレなのに、勤め先の行き帰り、救いの排泄環境に出会えた私はついていたと思います。身勝手な振舞だったかも知れないですけど。



連続セミナー

## 「うんと知りたいトイレの話」

第27回 2023年8月31日(木) 18時～20時

テーマ グッドトレイ選奨受賞作品を語る

第28回 2023年9月 日時未定

テーマ 災害トイレの備蓄調査より（仮称）

これまでのセミナーの概要は、当協会 HP で読むことができます。

英訳版も順次アップしていますのでご覧になってください。

## 「進化するトイレ」シリーズ 全3巻発売中！

当協会編集によるトイレの本「進化するトイレ」全3巻が柏書房より発売中です。

IN STORE NOW



各定価 3,300 円

- ・災害とトイレ 緊急事態に備えた対応
- ・快適なトイレ 便利・清潔・安心して滞在できる空間
- ・SDGsとトイレ 地球にやさしく、誰もが使えるために



協会員のみなさまには会員割引販売があります。詳細は HP をご覧ください。



広報部提案&推薦！出ました試作ピンバッジ！  
スッキリ爽やかなデザイン、よく見ると便器や  
ピクトグラムサインが隠れています。QRコード  
として公式サイトへ飛べます！投稿して下  
さった方々へのお礼としてお送りします。  
サイズ：19mm×19mm

## 編集後記

渋谷の THE TOKYO TOILET。トイレ清掃員を主役にした映画『PERFECT DAYS』がカンヌ映画祭で公開され、役所広司さんが主演男優賞、エキュメニカル賞を受賞しました。私も当PJのメンテナンスチームの一員なので、とても嬉しいです。今後、世界中より TTT のトイレを観光目的に来日されるものと思います。今後が楽しみです。(山戸伸孝)

皆さんは、「トイレメンテナンス」をテーマとした映画「パーフェクト・デイズ (原題)」をご存じでしょうか？同映画にて、「トイレメンテナンスワーカー」の主演を務めた役所広司さんが、フランスの「第76回カンヌ国際映画祭」にて、「男優賞」を受賞されました。同賞受賞は、日本人として19年ぶり2人目の快挙との事です。実は、この映画のプロデューサーは、去年のトイレシンポジウムのパネリストでもあった柳井康治さん(ファーストリテイリング取締役)です。トイレに関わる私たちとしても、同映画を応援していきたいですね。(ただ、日本公開は未定との事で1日も早い公開を期待したいところです。)(新妻普宣)

仮設トイレのプロの私は昨今、暑さ対策にも取り組んでいます。たかがトイレですが、されどトイレ短い時間も快適に。あまり快適すぎるそトイレ渋滞問題に繋がるのが次の問題ですがw  
(谷本亘)

トイレ協会会員、内海美由紀さん主催「トイレのおもてなし美術館のオンライン研究会」の講師のひとりとしてお手伝いしました。彼女とは2年前のトイレシンポジウムの日、午後から突然、体調不良になった私をビッグサイト医務室へ。ずっとそばにいてくれて、帰りの駅まで見守ってくれた。その安心感で無事、回復。やっぱりトイレは人をつなぎます(竹中晴美)

トイレシンポジウムのご案内の季節となりました。今回、実行委員長をお引き受けいたします。各方面で公衆トイレが話題になっている昨今ですが、より多くの人に、関心を持っていただけるように発信できたらと思っています。会場でも、オンラインでもお待ちしております。また、名称が変更になりました「JTAトイレ賞」へのご応募もぜひ、よろしくお願いいたします。(浅井佐知子)

暑い日が続く、まだまだこれが続くと思うと疲れてきてしまいます。早く秋にならないかなあ・・・と日々思っております。そんなこんなしてるうちに2023年も半分終わりました。早い。早すぎる・・・(高橋佳乃)

昨年、ポータブル電源とソーラパネルをセットで買いました。毎日続く日照りに思いついてベランダにソーラパネルを設置。プチ発電をしています。(小澤美紀)